文部科学省平成 29 年度特別支援教育に関する実践研究充実事業

「一人一人の共生社会」につながる交流及び共同学習研究報告会

～ポスター報告、パネルディスカッション、指導助言、講演会報告～

ポスター報告

小学部、中学部、高等部の代表クラスによる実践発表を行いました。

授業づくりや学級経営の中で大切にしてきた､｢年間の学習のつながりや教科等横断的なつながり｣｢児童生徒一人一人の学びのつながり（目標・指導内容・指導方法・評価規準・学習評価)｣｢授業改善」について焦点を絞り報告を行いました。

また、今年度から作成した教育活動全体を一望できる「教育課程マネジメント年間指導計画」や、単元の PDCA をわかりやすく明記でき 3 観点の評価規準を取り入れた「授業改善シート」についても紹介しました。

パネルディスカッション

「これからの共生社会をつくる若い世代の本音トーク」

本校の卒業生、京都八幡高等学校卒業生、本校教諭（京都八幡高等学校卒業生)、京都八幡高等学校教諭の 4 名によるパネルディスカッションを行いました。それぞれの立場から感じる交流及び共同学習の意義や、交流及び共同学習による成長や変化などを本音で語っていただきました。

会場からの「共生社会の実現のためには社会がどのように変わったらよいと思うか」という質問に対して、本校の卒業生は「何でもチャレンジさせてほしい。知的障害だからできないと決めつけないでほしい。」と語ってくださいました。多様性は可能性でもあり、可能性を信じることで豊かに生きる力が育まれていくということを実感しました。また、そのような生徒の姿を地域社会へ発信することで特別支援教育への理解も深まっていくということ、本校の取組が共生社会の形成に大きく貢献しているということを改めて確認する機会となりました。

指導助言　立命館大学　教授　青山芳文　氏

本校の実践で大切にしている、「日々の授業づくり」や「交流及び共同学習の充実」、「社会参加の機会を大切にしながら自立の力を高めること」、「社会参加の活動を日々の教育活動に位置づけていること」について２年間の研究を振り返り、意味づけをしていただきました。

授業改善を強く意識し実践的研究に取り組んでいることなど、本校が進めてきた研究に評価をいただきました。

今後の授業づくりに向けてご指摘いただいた、中度・重度の知的障害のある生徒にとっての作業学習の在り方や、実年齢を大切にする視点と一人一人の発達課題の理解についてなど、今後も取り組んでいきたいと思います。

講演会　「一人一人の共生社会」につながる交流及び共同学習

講師　プール学院大学／プール学院大学短期大学部　教授　石塚謙二　氏

本校の ２ 年間の研究を振り返りながら、新学習指導要領の中でキーワードとなる「主体的・対話的で深い学び」の視点や「汎用的能力の向上」「教科の視点」「学習評価」等についてわかりやすくお話しいただきました。

本校が開校以来取り組んでいる交流及び共同学習の特徴的な要素として、中心的な学習活動に交流及び共同学習を据えることで、児童生徒が得意な活動を生かし、日頃の学習で身につけた力が生かされ汎化されていることに触れられ、「総論ではなく各論として、一人一人に最適なレベルの高い共生状態を実現している」という評価をしていただきました。

今後も、一人一人に合わせた共生社会づくりをめざし、社会参加しながら自立していく児童生徒の姿を保護者や地域社会と共有し、学校を拠点に町づくり・人づくり・関係づくりに取り組んでいきたいと思います。

参加者のアンケート

□授業公開では、高等部の作業体験教室の取組に大変興味をもちました。生徒が地域の方に先生と呼ばれ、自然と関わっていたのも小学部からの積み上げだと感じました。

□ポスター報告では、しっかりと振り返り授業を改善しているのと、３観点での評価により、改善されることでより子ども達のねらいにせまられていると感じました。

□この報告までに授業の話を教員間でたくさんされていることが伝わりました。

□パネルディスカッションでの両校の卒業生のお話、これまでの交流に携わってきた先生のお話、とても貴重で心に響きました。支援学校、京都八幡高等学校、双方の卒業生と活動を支えてきた高校の先生が当時、そして、今の思いを聞かせていただき、とても心に響きました。交流及び共同学習が双方にとって豊かな学びのあるものということを改めて感じました。

□卒業生や両校の教諭のお話は、「一人一人の共生社会」を真に表したものでした。これまでの両校の取組の結晶であり、卒業生の方がおっしゃった「知的障害があるからダメ」という社会にはしてほしくない」という言葉がとても印象的でした。

□青山先生の指導助言や石塚先生の講演から、授業改善を本当にしっかりとされているんだと思いました。重度の生徒の活動づくりのうまさに感心しました。

□共生社会実現のために私達が教育活動をとおして今、しなければならないことがわかりました。

□この素晴らしい立地条件をフルに活用し、今求められている特別支援学校の姿を授業、教育課程、学校経営、地域とのつながりに具体化されていました。大きな成果をおさめられたと思います。